

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 中野 正裕	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <ul style="list-style-type: none">・産業研究所プロジェクト研究への参加（昨年度からの継続） <p>平成 24-26 年度の本学附属産業研究所プロジェクト『デフレーション現象への多面的接近』（責任者：藤本哲教授）に今年度も参加し、デフレーション現象がもたらす社会的費用の評価について検討した。デフレの社会的費用について、現行の労働市場の雇用流動性の高まりや物価ターゲット重視の政策ルールの採用などに配慮し、定性的および定量的側面から考察した。考察内容の一部をテーマとして本学第 31 会公開講座「デフレーションを考える」（第 8 講、2014 年 11 月 18 日）で講義を行った。考察内容をプロジェクト本の第 1 章「デフレの社会的費用」に公表した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none">・講義・演習における工夫と学内ポータルシステムのさらなる活用 <p>学生の学習への動機付けを進め、個々の学習段階で達成度を詳細に評価して柔軟に対応できるよう、今年度から担当するすべての専門科目（初級マクロ経済学Ⅰ、初級マクロ経済学Ⅱ、中級マクロ経済学Ⅰ）で定期テストを 2 回（第 6 週および第 11 週に）実施し、期末テストとの総合点で評価する方式に変更した。また平成 25 年度からポータルサイトを通じて受講者に対する告知、資料のダウンロードサービスを導入してきたが、それに加えて今年度は講義で配布する練習問題の解答・解説および定期テスト・期末テストの解答・解説をポータルサイトで確認できるようにした。この方式に変更したことで、初級マクロ経済学Ⅰ、Ⅱともに落第者の割合が昨年度と比べて若干低下したため、評価制度や情報提供を変更したことには一定の効果があったと考える。</p> <p>演習指導においてもポータルサイト内の学生の修学、履修情報を管理し、それに基づく個別指導を強化し、指導内容の改善に努めた。また出身県での就職活動が忙しく演習を欠席する 4 年生に対しても、卒論指導や作業フォーマットの開示などポータルサイトを活用した指導が効果をあげ、全員が期限内に一定水準を超える研究成果をあげていた。</p> <ul style="list-style-type: none">・学外の社会活動 <p>財務省関東財務局（前橋財務事務所）の財務行政モニター委員をつとめた(年数回のモニター会議に出席した)。</p> <p>またラジオ高崎の番組「ラジオゼミナール」に出演し、担当講義「マクロ経済学」の内容や大学生の学びの状況、学ぶ楽しさ・難しさについて、一般向けに解説した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <ul style="list-style-type: none">・1 で報告したプロジェクト研究と関連して公表出来なかった研究成果については、平成 27 年度以降に別の形で公表したいと考える。・2 で報告した講義・演習におけるポータルサイトの活用で一定の成果が得られたので、平成 27 年度以降、受講生に対して個別の助言・指導を充実させられるよう、さらにポータルサイト等の情報ツールを活用して指導方法を工夫したいと考えている。	